講演概要

講演者　五月女 光弘

＜はじめに＞

1. オリンピック東京開催決定から見える日本の評判
   （1964 年、2020 年の投票結果から）
2. ３月 11 日の東日本大震災支援活動から見える日本の姿
   （世界からの史上最大の救援結果）
3. 日本人の気付かない日本の高い好感度、国際的中立機関の調査から
   （自虐意識を捨てて自信を持つ人間へ）
4. 日本女性の国際貢献の現状、女性の積極的海外進出
   （国連、ＮＧＯ/ＮＰＯ、青年海外協力隊における参加者は増加傾向に）

＜なぜ日本は国際協力をすべきなのか、４つの理由＞

1. 日本ほど国際社会から恩恵を受けた国はない
2. 国を守り平和を築く国の安全保障の為に（軍事力だけでは守れない）
3. 弱者を助ける無条件の意志（ノーブレス・オブリージュの精神で）
4. 世界の歴史を振り返り、学ぶべき例、反面教師を見極める

＜終わりに＞

1. 日本の国民であることに自信を持って、沢山の友達を作りましょう
2. 情けは人の為ならず、いつの日か必ず恩義は自分の所に戻ってくる
3. 百聞は一見に如かず、百見は一行に如かず（行動なくして結果なし）

注：ノーブレス・オブリージュはフランス語。
（高貴な人、幸せな人の当然の義務）

恩義の輪廻／日本人の知らない素晴らしき日本

「灯台もと暗し」と云う格言があります。
「遠くは、よく見えるけれど、近くはよく見えない」と云うことです、現代の日本人は外国を旅し、滞在し、外国を語る人は沢山見受けられますが、はたして目本のことをよく知り語れる人はどのくらいいるのでしょうか。意外と知らないのではないかと思っています。
2011 年 3 月 11 日の東日本大震災は語るまでもなく未曾有の悲惨な出来事でした。人命の喪失、経済の基盤の破壊はもとより。日本人の心に深い傷跡を残しました。しかし、その被災者救援のため、世界中の国々から多大な支援物資・義捐金が送られてきました。大震災から５か月を経過した段階で、外国政府からの支援申し出は 163 カ国、既に実施の国は 126 カ国。民間からの義捐金・支援物資も約 180 カ国から贈られ、その総額は約 1000 億円を超え、災害義捐金としては世界史上最高額でした。特にアメリカ、台湾からはそれぞれ 200 億円を超える大きなものでした。そして紛争で苦しむスーダン、アフガニスタン等も含めアジア・アフリカの貧しい人々も自分の日給分に当たる 50～100 円位の金額を集めて数百万円もの送金をしてくれました。

では、なぜこのような多額の支援を日本は受けることが出来たのでしょうか。勿論これまでの長年に亘る日本の支援への恩返しの要素もあるでしょう。しかしそれだけでは説明がつきません。途上国以外の国からも多数の支援があったからです。
実は、日本は世界で最も好感を持たれ、愛されている国の一つなのです。
最近の自虐的な傾向にある日本人には気が付きにくいことかもしれません。
世界の中立的な調査機関が行った世論調査の結果をみると日本人が驚くようなものでした。
2010 年に各国で行われた結果をお見せしましょう。

例えば、トルコでの調査です。
好きな国ランキング（1000 人調査）、１位：日本 249、2 位：グルジア 117、3 位：イタリア 109、4 位：ドイツ 92、5 位：パレスチナ 89、6 位：米国 85、・・・でした。
台湾での調査です。
１位：日本 52％、2 位：米国：8％、３位：スイス：3％、４位：中国：2 ％
また厳しい評価をする**米国**はどうだったでしょうか（ギャラップ調査、単位％）
１位：カナダ 90、2 位：英国 87、3 位：ドイツ 80、4 位：日本 77、　5 位：イスラエル 67、・・でした、
米国にとってカナダと英国は身内の国で、実際の外国としては、ドイツと日本が最上位でした。
日本を好きな国トップ５に入れる国は、スリランカ、ミャンマー、カンボジア、モンゴル、ブータン、ネパール、バングラディッシュ、ベトナム、タイ､パラオなど数え切れません。

世界の中の日本の評価

1. 世界の平和で安全な国ランキング
   ① 英国エコノミスト誌調査　（2008 年）
   １位 アイスランド、２位 デンマーク、３位 ノルウェー、
   ４位 ニュージーランド、５位 日本、６位 アイルランド、
   ７位 ポルトガル、８位 フィンランド、　９位 ルクセンブルグ、
   １０位 オーストリー、以下 カナダ、スイス等
   ② 豪州経済平和研究所調査（2011 年）
   １位 アイスランド、２位 ニュージーランド、３位 日本、
   ４位 デンマーク、５位 チェコ、６位 オーストリー、
   ７位 フィンランド、８位 カナダ、９位 ノルウェー、
   １０位 スロベニア
   （注）すべて欧米の人口の少ない国、１億以上の人口大国は日本のみ。
   上位国で欧米以外は日本のみ。

2. 世界で好感度の高い国ランキング　（2010～2013 年調査）
   ① 台湾世論調査機関
   １位 日本(52%)、２位 米国(8%)、３位 スイス(4%)
   ② トルコ世論調査
   １位 日本(25%)、２位 グルジア(12%)、３位イタリア(11%)、
   ４位ドイツ(9%)、５位パレスチナ(9%)、６位米国(8%)
   ③ 米国 Gallup Poll 調査
   １位 カナダ、２位 豪州、３位 英国、４位 ドイツ. ５位 日本
   ④ 米国 Pew Research 調査
   １位 カナダ、２位 英国、3 位 日本、４位 ドイツ
   ⑤ 香港大学調査
   １位 日本、２位 シンガポール、３位 台湾、４位 豪州、
   ５位 カナダ
   ⑥ 英国ＢＢＣ放送調査
   １位 ドイツ、２位 カナダ、３位 米国、４位 日本、
   ５位 フランス

3. 東南アジア諸国連合（アセアン）の日本の評価｛2014 年３月｝
   ① 最も信頼できる国
   １位 日本(33%)、２位 米国(16%)、３位 英国(6%)、
   ４位 豪州(5%)、5 位 中国(5%)、6 位 NZ(4%)
   以下 ロシア、ドイツ、韓国等
   ② 日本を高く評価する理由
   - 科学技術の発達した国
   - 経済力の強い国
   - 自然の美しい国
   - 豊かな文化を有する国

(注)アセアンとは、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、
マレーシア、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジアの１０カ国

世界の国々の政治体制

国体	元首	行政長	国家の例
帝国	皇帝	首相	日本帝国、 旧エチオピア帝国 （戦後唯一のアフリカでの独立国）
王国	国王・女王	首相	英連合王国、オランダ王国
公国	公爵(大公)	国務相	モナコ王国
共和国	大統領	首相	フランス共和国
連邦国	総督(英国王の代理)	首相	オーストラリア連邦

（注）Emperor（皇帝・天皇）が元首の国は、Empire（帝国）と云う。
King（王）が元首の国は、Kingdom（王国）と云う。
President（大統饌）が元首の国は、Republic（共和国）と云う。

日本国天皇は、英訳で Emperor of Japan であり、Empire of Japan つまり日本帝国である。英語国では、昔も今も日本は日本帝国であると認識しています。

事実、以前に天皇が国賓として米国を訪問した際、ニューヨーク市警察は接遇ランキング（プロトコール・オーダー）によるモーターゲート（護衛車列）では、特Ａ（皇帝接遇）で盛大な護衛車列を組み、大通りで交適信号を全て青にして、ノンストップで行進しました。

接遇ランキング
特Ａ：皇帝、　Ａ：国王、　Ｂ：大統領、　Ｃ；首相、　Ｄ：大臣
現在、世界では帝国は唯一日本しかないので、特Ａ対象国は日本の天皇(皇帝)のみです。

世界の国々は、ローマ帝国(ローマン・エンパイアー)から始まり、大英帝国(ブリティシュ・エンパイアー)に至る「帝国」には、ノスタルジアを感じ、畏敬の念と敬意と憧れの気持ちを持っています。

日本国の天皇陛下が諸国を訪問される際は。ほとんどの国が最高の敬意を持って最上級のレベルで接遇します。

世界が尊敬し憧れる日本。しかし日本人の半数近い国民は、自虐的なのか、日本を良い国と思っていますのは驚き。

ある世論調査から。非公式なので参考まで。

自分の国を好きな自国民のパーセンテージ。

オーストラリア人	９０％
カナダ人	９０％
欧米諸国の人々	７０～８０％
日本人	５６％

先進国では自国を好きな比率が、日本人が最も低い。
不思議な現象、自国の良さを知らず自虐的なのには驚き。

貧困の厳しい途上国や紛争地域の国々が自国を好きにならないのは理解できるが、世界で最も素晴らしい国と世界の人々が認識している日本を、日本人が好きでない事の不思議。

閑話休題

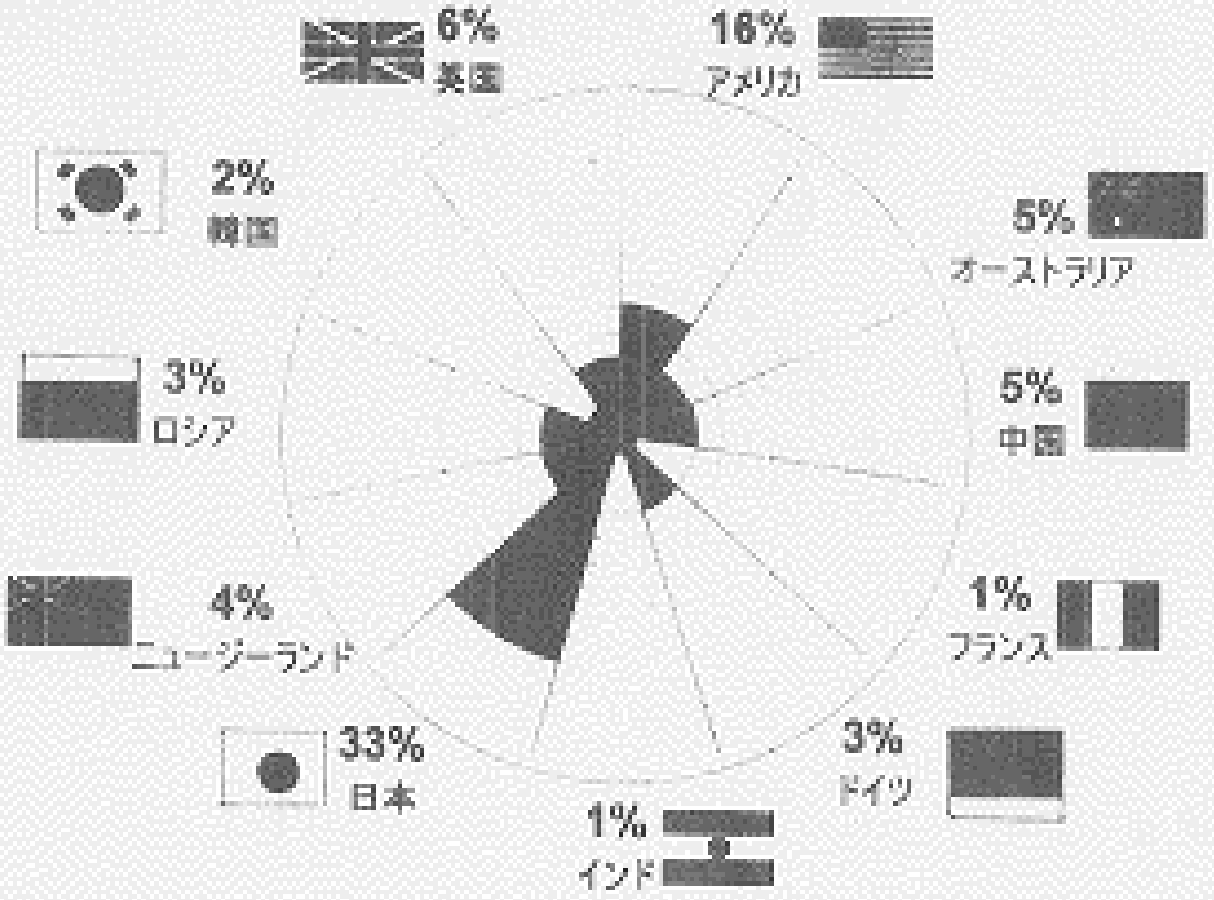
異文化・異言語理解は難しい。カタカナ英語に気をつけましょう。

カタカナ表記の英単語

カタカナ表記の英単語	英語綴りと意味	
ライト	right light Wright	正しい。健康な、右 光 ライト兄弟（飛行機発明）
サンク	I thank you I sank you	私は貴方に感謝します 私は貴方を沈めました
フード	Chew your food well Chew your hood well	食物を良く噛んでね 頭巾を良く噛んでね
シット	Sit down please Shit down please	どうぞお座り下さい ○○○をしなさい（トイレで）
チキン	I eat chicken I eat a chicken	私はフライドチキンを食べます 私は生きている鶏を食べます
ベスト	best seller vest seller	本のベストセラー チョッキの売り子
ファースト	first lady fast lady	（一番偉い女性）大統領夫人 （駆け足の早い）女性

全体として日本は調査対象の11の国の中で最も信頼できる国と評価された。

最も信頼できる国(%)



目盛: 1目盛2%

Q8. 以下のリストにある国の中で、どの国が最も信頼できますか？ 3つまでお選びください。
調査対象: 回答者全員 (n=44人)

9割以上の人が自分の国と日本の間に友好関係が存在すると答えている。ミャンマーで上位2分類を選択した人が多かったのは、「やや友好的」の回答が多かった(66%)ことが主な理由である。

自分の国と日本との関係性(%)

	合計	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
非常に友好的	[illegible]	66	42	22	68	44	54	67
やや友好的	41	30	48	66	30	52	43	28
あまり友好的ではない	2	3	7	6	1	1	1	1
まったく友好的ではない	1	0	0	2	0	1	0	1
上位2分類を選んだ人の割合	94%	95%	91%	88%	98%	96%	97%	95%

Q9. 貴国の国と日本の関係性をどのように考えていますか？
調査対象：すべての回答者(2,164人)、インドネシア(300人)、マレーシア(317人)、ミャンマー(300人)、フィリピン(300人)、シンガポール(300人)、タイ(300人)、ベトナム(304人)

名刺交換も結構ですが

五月女　光弘

「やあお久しぶりです。お変わりありませんか？」「どうも、ご無沙汰しています。お陰様でなんとかやっています」・・・。

あるパーティーの席での挨拶のやっとりである。以前どこかでお目にかかったことがあるようだが、名前が思い出せない。イトウさん？　サトウさん？　それともゴトウさんかな。役所の人か、学者だったか、それとも報道関係者か。今さら名前を聞くわけにもいかない。

どうも最近とみに人の名前を覚えるのが不得手になってきているようだ。

十年以上も前のことであるが、私がニューヨークに在籍していた時、日本の国会議員で大臣経験のある方（仮にスズキ議員としておきましょうか）がお見えになり、マンハッタンにあるニクソン元大統領の事務所を訪問することになった。私がご一緒して車でその事務所に向かうたところ、なんとニクソンさんが歩道に立ってわれわれを待っていてくれたのだ。そして、車から降りて握手をしながらお互いに自己紹介をする。

「はじめまして、私は国会議員のスズキです。お時間をいただき有難うございます」

「はじめまして、私は案内役の日本総領事館のサオトメです。どうぞよろしく」

「ようこそいらっしゃいました。スズキ大臣（Minister Suzuki)、そしてサオトメさん（Mr.　Saotome)、私がニクソンです。お目にかかれて嬉しく存じます」

「いや私は今は大臣ではなく、ただの議員です」

『私はスズキさんが以前に大臣をされていたのを存じています。アメリカではその人が就いた最高ポストの名称を、たとえ退任していても呼びかけに使うのが慣習です』

そんなやりとりの後、ニクソンさんの事務所で会見が１時間ほど行われた。会見後。ニクソンさんは車ところまで見送ってくださり、「今日は有意義なお話合いができて大変よかった。またお目にかかりましょう、スズキ大臣。そして今日は案内役ご苦労様でした、サオトメさん」

アメリカで極めてよく知られている日本人の苗字としては、スズキさん、ホンダさん、カワサキさん。そしてトヨタさんなどであろう。いずもオートバイや自動車のメーカー名でもある。

日本でもあまり馴染みのないサオトメという苗字を、かの著名なる世界的な政治家であるニクソンさんが少なくとも一時間は覚えていてくれたことに大変感服した。

後に、その話をいまは退官されているＯＢのＡさんに語ったところ、「君、そんなことは驚くにあたらない。僕が現役時代に現職の大統領でもあったニ

クソン氏に会い、それから十年後に共に退官していたが、あるパーティーで再会したところ、むこうから“Ａ大使久しぶりですね”と話しかけてくれた。十年間も私のことを覚えてくれていたのだよ」と、感慨深く話しておられた。

自分自身を反省を込めて振り返ってみると、物覚えが悪くなったことを年齢のせいにして、覚えようとする努力を怠っているのではないか、と考えたりする。日本では私も含め初対面での名刺交換が常であり、その時覚えられなくても後で名刺を見れば思い出せると安心してしまうのではないだろうか。

外国で気付くことは、自己紹介するとその場で寛えてしまおうと、何回か聞き直し、そして綴り（スペル）を確かめる。その努力の差が記憶の差となって出てくるのではないかと反省することばかりである。

国際化時代に外国人との緊密なコミュニケーションを図ることは大切だ、と言っても、日本人同士のコミュニケーションがうまくいかないのであれば、それも空しく聞こえてしまう。名刺に頼らず年齢のせいにすることなく、「やあお久しぶりです、ナオトメさん。お変わりありませんか？」「お陰様で元気でやっています。イトウさん」と、いきたいものである。

「世界と人口」九月号